

琉球大学学術リポジトリ

日本の沖縄での潰瘍性大腸炎患者のサイトメガロウイルスの遺伝子型の分布

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学 公開日: 2018-08-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Nahar, Saifun メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/42205

平成30年6月8日

(別紙様式第7号)

論文審査結果の要旨

報告番号	*課程博第 号	氏名	Saifun Nahar
論文審査委員	審査日	平成 30年 6月 5日	
	主査教授	高橋 健造	
	副査教授	岸本 葉博	
	副査教授	植田 真一郎	
(論文題目)			
Distribution of cytomegalovirus genotypes among ulcerative colitis patients in Okinawa, Japan (日本の沖縄での潰瘍性大腸炎患者のサイトメガロウイルスの遺伝子型の分布)			
(論文審査結果の要旨)			
上記論文に関して、研究にいたる背景と目的、研究内容、および研究成果の意義と学術的水準について慎重に検討し、以下のような審査結果を得た。			
1. 研究の背景と目的			
潰瘍性大腸炎(UC)患者にサイトメガロウイルス(CMV)腸炎が合併すると重症化することが知られている。しかし、どの遺伝子型のCMVが重症化に関与しているかは明らかではない。そこで、本邦のUC患者に感染しているCMV遺伝子型のglycoprotein B (gB), glycoprotein N (gN)とglycoprotein H (gH)の分布を明らかにすることを研究目的とした。			
2. 研究内容			
既報において、2014年8月から2015年1月までに琉球大学医学部附属病院第一内科で大腸内視鏡を受けたUC患者症例のうち、糞便からSeeplexのmultiplex PCR法によってCMVが検出された11症例を今回検討した。11検体からDNAを抽出し、各遺伝子型の存在をPCRで検索した。さらに、増幅した遺伝子領域を北海道システムサイエンス社で精製してシークエンスした。GenBankを利用して、シークエンスデータの系統樹解析を行った。臨床データは診療録から解析し、UCの重症度をMayo scoreで評価した。統計解析は、SPSSを用いた。			
11検体のうち、8検体が解析できた。8検体中、gB, gN, gHは、各37.5%, 50%, 100%検出された。系統樹解析から、gBではgB1が、gNではgN3が、gHではgH2が多かった。活動性UC患者では、gH1よりgH2が有意に多く検出され、免疫抑制剤を投与された活動性UC患者でも			

gH1 より gH2 が有意に多く検出された。

3. 研究成果の意義と学術的水準

本研究は、CMV の遺伝子型 gB1, gN3 と gH2 は、日本の沖縄における UC 患者から分離される頻度が高いことを明らかにした。特に、遺伝子型 gH2 の合併は、UC の重症化へ関与している可能性が示された。

本研究は非常に貴重な臨床研究であり、その研究成果は国際的にも認められる高水準のものであると評価された。

以上により、本論文は学位授与に十分に値するものと判断した。

- 備 考
- 1 用紙の規格は、A 4 とし縦にして左横書きとすること。
 - 2 要旨は800字～1200字以内にまとめること。
 - 3 *印は記入しないこと。

平成30年6月8日

(別紙様式第8号)

最終試験結果の要旨

報告番号	*課程博第	号	氏名	Saifan Nahar
論文審査委員	審査日	平成30年6月5日		
	主査教授	高橋 健造		
	副査教授	岸本 英博		
	副査教授	相田 真一		
<p>(最終試験結果の要旨)</p> <p>最終試験は口頭による公開討論によって行い、以下の件について確認した。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 提出論文の内容、意義についてよく把握していること。2. 研究の目的と方法について理解、熟知していること。3. 研究結果について正しく理解していること。4. 関連研究の文献をよく理解していること。5. 研究結果の展望について確かな見解を有していること。 <p>審査の結果、これらに関連する質問に対して十分満足する回答が得られたため、本学大学院博士課程を修了するに値すると判断し、最終試験は合格とした。</p>				

- 備考 1 用紙の規格は、A4とし縦にして左横書とすること。
2 *印は記入しないこと。